

当社における自動走行の取組について

DeNA

Feb 16. 2017

株式会社ディー・エヌ・エー
取締役会長 南場 智子

これまでのDeNAの取り組み



2020年までに無人走行サービスを事業として実現

解決したい社会課題

赤字路線などの地方交通・物流の抱えている課題への解決

深刻なトラックドライバー不足の解消

実用化に向けた取り組み

① 地域交通・物流への無人自動走行サービスパッケージの提供

② 高速道路における無人を目指した自動走行トラックの実用化

モビリティ業界の構図イメージ



IoT・自動走行領域では死守し、世界・アジアに展開する

行政の窓口を一本化し、責任を持って包括的に推進できる司令塔機能の設置が必要

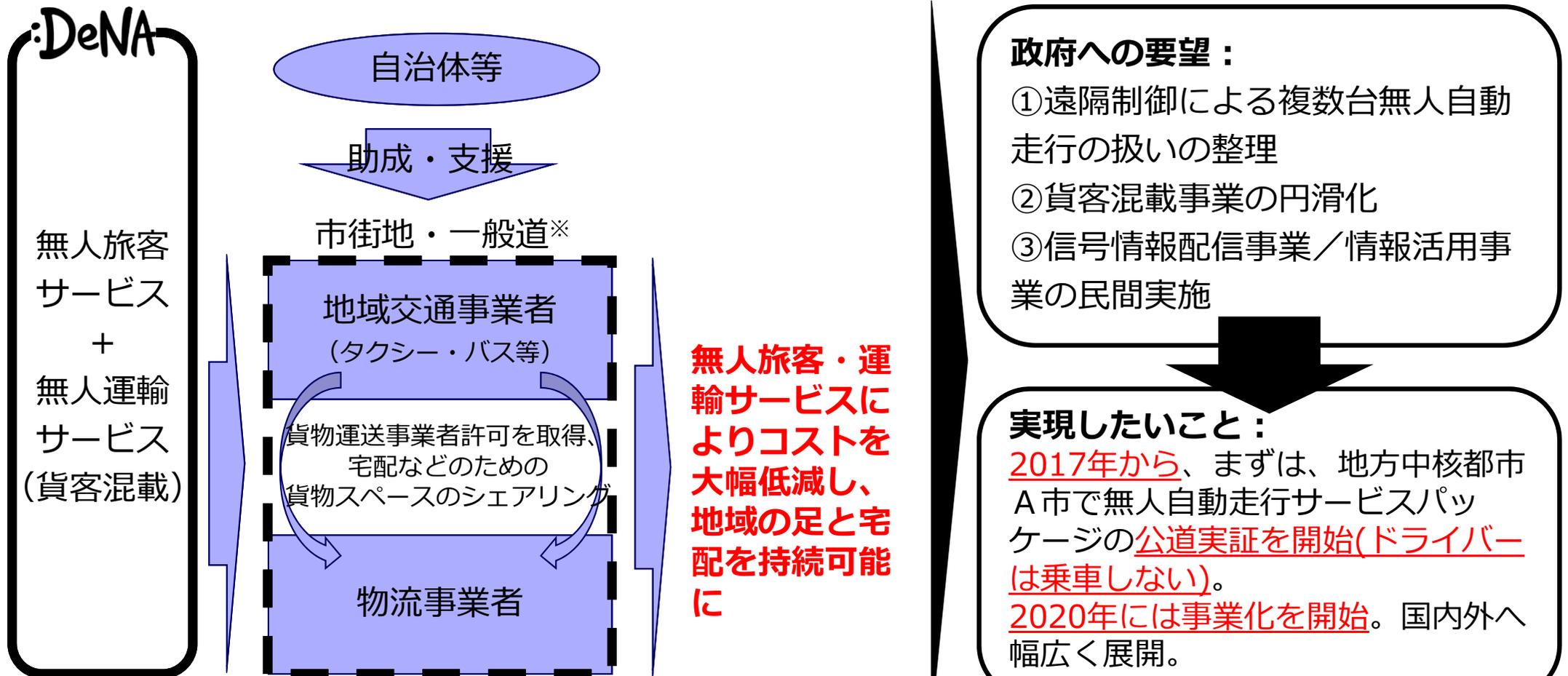
政府にご検討いただきたい要望事項

- ① 行政の窓口を一本化し、責任をもって包括的に推進できる司令塔機能の設置
- ② 官民が「東京オリンピックまでに無人走行サービスを実現する」というゴールを共有して、官側も積極的に規制の体系を検討する「ゴール共有型規制改革方式」の導入
- ③ 実証実験を行う2017年末までに、1対N形式も含めた、遠隔型システムを実現するための規制緩和等の各種取組を実現するための制度整備
- ④ ビジネス展開を想定している2020年までに高度な自動走行に向けた制度整備（例 従業員個人ではなく、法人全体で責任を負う法体系の整備 等）

【参考①】 地域交通・物流への無人自動走行サービスパッケージの提供

- ドライバー不足や赤字路線など、地方交通・物流の抱えている問題を解決するため、地域交通事業者等と共に無人自動走行サービスパッケージ※を構築し、地域の交通・物流の足を提供する。

※ 既に国家戦略特区等で実証実験を行っている無人自動走行車、運行管理や車両の遠隔制御等を行う管制システム、ユーザーとのインターフェースとなるスマホ向けアプリ等をパッケージ化して、地域交通事業者に提供し、地域交通事業者が無人自動走行車を活用した旅客・運輸サービス(旅客・運輸を組み合わせた貨客混載含め)を実施できるようにする。

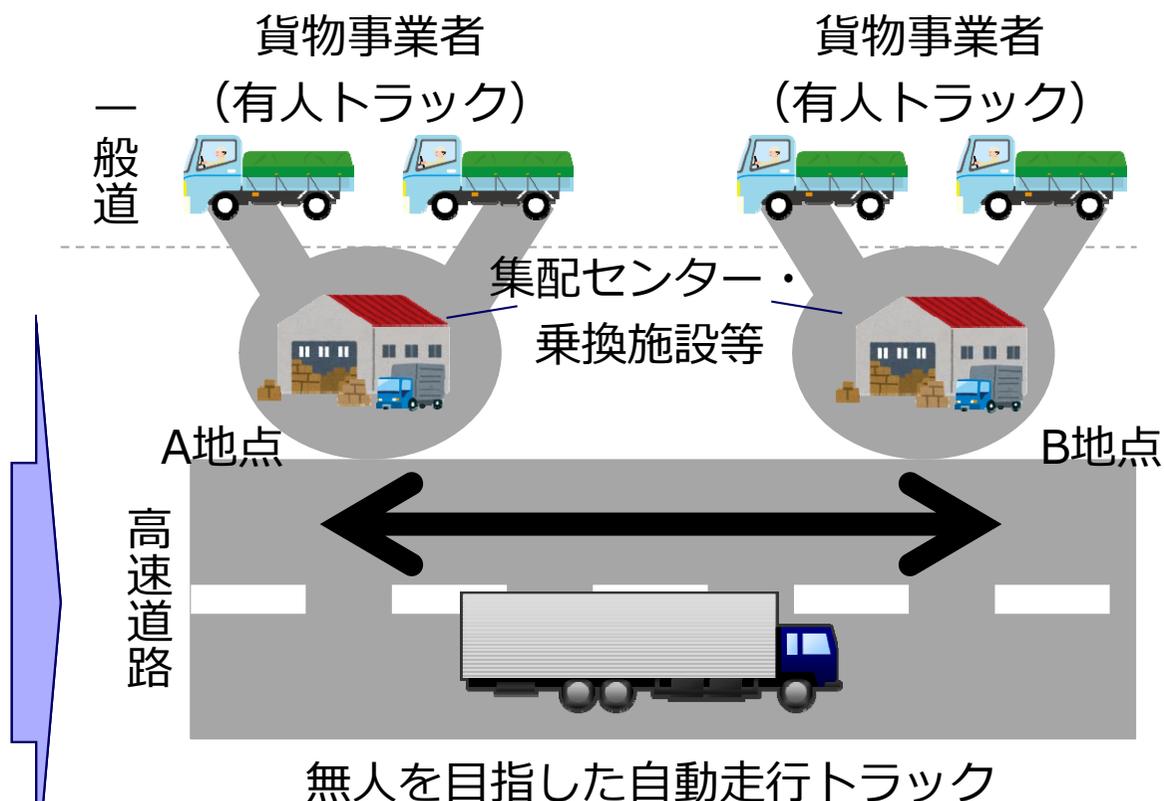


※自治体などの関係者と協議の上で具体的な実施場所を決定

【参考②】 高速道路における無人を目指した自動走行トラックの実用化

- ドライバー不足の課題を解決するため、高速道路において無人を目指した自動走行するトラックを実用化し、物流業界におけるドライバー不足の解消を目指す。

DeNA
無人運輸
サービス



政府への要望：

- ① 遠隔制御による複数台無人自動走行の扱いの整理
- ④ 集配・乗換等のための物流施設のSA/PAへの直結(実証用含め)

実現したいこと：

2017年から、高速道路※で無人を目指した自動走行トラックの公道実証を開始(ドライバーは乗車)。
早ければ2020年には事業化を開始。

※具体的場所・区間は今後関係者へ協議の上決定

【参考③】遠隔型システム概要

- ◆ 基本的には車両自体の自動運転機能を用いて走行
- ◆ 車両では判断できない事象（例：手旗信号）等の異常事態が発生した場合に限り、遠隔地にある管制センターから車両に指令を送る



異常事態における指令等

周囲・車内の映像、プローブ情報等

